

スマート農業導入や高付加価値米生産による地域農業の新たな創造への取組 ～深耕ファーム（岐阜県羽島市）～

経営体の概要

設立年度：平成26年度
基幹作物：水稲
経営面積：10ha

現在：令和5年
基幹作物：水稲、大麦、露地野菜
（ブロッコリー等）
経営面積：90ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【当初】

- 木曾川の河床低下等により頭首工の機能が低下。
- 都市化・混住化の進行に伴う家庭雑排水の流入やゴミ投棄等により水質が悪化し農作物に被害。

整備前の状況
(羽島水路)



【現在】

- 国営総合農地防災事業「新濃尾地区」（平成10年度～令和9年度（予定））により頭首工の改修が行われ、安定的に農業用水を取水。
- 国営事業及び県営事業により農業用水と排水の分離が行われ、水質の改善・施設管理の適正化が図られ農業生産の維持と農業経営の安定に資するとともに、国土の保全に貢献。

営農改善、経営転換等のポイント

①栽培技術の確立・向上

安心・安全なお米（ハツシモ※）を生産するため、平成30年から無農薬・無化学肥料の有機栽培を実践し、高付加価値米として百貨店で販売。また、令和2年に有機JAS認証を取得。

また、転作として大麦や露地野菜（ブロッコリー）の取組を開始。

※岐阜県のオンリーワン品種、大粒で寿司米として好評



紙マルチを敷設しながら田植え(有機栽培米)

②省力化

少人数でも効率的で生産力の高い農業を目指すため、農薬散布を行うドローンや自動運転が可能なトラクター等を導入。従業員の誰が作業を行っても高精度で高効率な作業ができるよう、クラウド営農管理やGPSを活用した農業機械を使用するなど、ICTやスマート農業技術を積極的に導入。その結果、90haを超える大規模栽培を3人のオペレーターでカバーできている。



営農管理システム

③機械・施設の整備状況

効率的に乾燥調製を行いながら、地域農家の個別乾燥にも対応するため、令和4年に大型乾燥機や光選別機を備えたライスセンターを独自に整備し、農産物検査業務を開始。



ライスセンター

事業概要

事業種：国営総合農地防災事業
関係市町：岐阜県岐阜市外2市2町及び愛知県名古屋市外12市5町
受益面積：10,139ha
事業期間：平成10年度～令和9年度（予定）
事業目的：農業用排水施設の機能回復
主要工事：頭首工改修1箇所 用水路改修 L=32.0km
排水路改修 L=27.3km

位置図



<問合せ先>

東海農政局
農村振興部農地整備課
課長補佐(競争力強化事業推進)・営農指導係
電話：052-223-4638

(令和5年度調査時点)